

関東甲信越東海 GIS 技術研究会

第 13 回定時総会・平成 25 年度第 1 回定例会 開催報告

- 名称 関東甲信越東海 GIS 技術研究会 第 13 回定時総会・平成 25 年度第 1 回定例会
- 日程 平成 25 年 4 月 25 日（木） 総会・定例会 13：00～17：30
- 会場 「フクラシア東京ステーション 5 階-L 室」
東京都千代田区大手町 2-6-1 朝日生命大手町ビル 5 階・6 階
- 参加数 40 名 司会：小堀（以下、敬称略）

～ 第 13 回定時総会 ～

1. 開会の辞 （宮下副会長）

本日は、国土地理院関東地方測量部 宇根部長様、
NPO 全国より碓井理事長、佐野副理事長にご出席を賜りました。

2. 会長挨拶 （増澤会長）

増澤会長より、NPO 新体制発足の主旨説明、新年度にあたり、
「平成 25 年度活動方針」についてお話し頂きました。

平成 25 年度スローガン「1 トライ、1 新会員」

「今年度のキーワードは、“GIS による地域活性化”です。
各県において①1 つの大きな成果をあげる。②新入会員 1 社
を獲得する。これが目標です。」



私たちは、次のような “志（ビジョン）” をもって活動しています。

「**現在及び将来の国民が安心して豊かな生活を営むことができる G 空間社会**
（地理空間情報を高度に利用した経済社会）を実現します」

- ◆ 「産学官民」連携による GIS 産業の発展、G 空間社会の実現への貢献
- ◆ GIS 活用促進による地域活性化への貢献
- ◆ GIS 関連技術の研究、知識の習得による新たな空間情報技術者の育成
- ◆ 自治体の住民サービス向上と業務効率化への貢献
- ◆ 測量業界の異分野への事業領域拡大
- ◆ 会員企業の経営安定化

私たちは、測量技術者から空間情報技術者へと進化し、上記の志（ビジョン）を達成することこそ、
世の中のために貢献することであり、同時に私たちの生き残る道であると考えています。

このように、当研究会の方向性を確認したうえで、今年度は会員一丸となって、

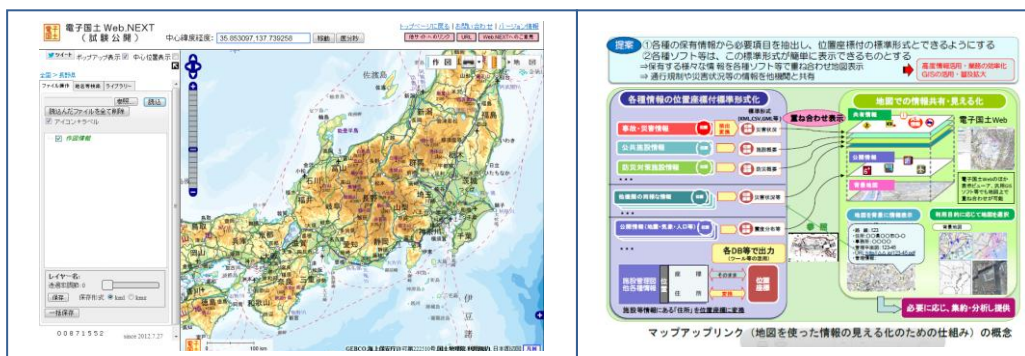
「1 トライ、1 新会員」を目指しましょう。

3. 来賓挨拶 国土交通省国土地理院関東地方測量部部長 宇根 寛 様

関東地方測量部の宇根部長様をお招きし、ご挨拶並びにご講演をいただきました。

国土地理院は、地方公共団体や民間企業に限らず、国民の誰もが、地理空間情報を実践的に簡易に活用できる電子国土 Web システムを提供しています。この度、電子国土 Web.NEXT として新たな機能を加えました。また、マップアップリンクという地理空間情報を“見える化”するための仕組みをご紹介いただきました。

宇根部長様には、毎年、当研究会に多大なるご協力を頂いております。会員一同心より感謝申し上げます。



4. 議長選出、議事録署名人の指名

議長 増澤会長

議事録署名人 (株)山形測量 山形社長様 (茨城県) (株)スタッフ 篠原社長様 (群馬県)

5. 議事

- 第一号議案 平成24年度事業報告承認の件 (小堀事務局長)
平成24年度事業報告を項目ごとに説明。
- 第二号議案 平成24年度決算報告承認の件 (小堀事務局長)
平成24年度収入及び支出、項目毎での説明。

監査報告 (森田監事)

奥泉監事と共に厳正な監査を行い、適正と認めたことを報告。

- 第三号議案 平成25年度事業計画(案)承認の件 (小堀事務局長)
平成25年度事業計画(案)発表。
- 第四号議案 平成25年度予算(案)承認の件 (小堀事務局長)
平成25年度予算(案)発表及び説明。





- ・ その他 会員数の増減について
新会員として（榎三進（栃木県、生井社長））をお迎えした。

6. 閉会の辞（佐藤理事）

平成 24 年度の事業報告 並びに 決算報告、
平成 24 年度の事業計画案 並びに 予算案ほか
ご承認いただき、有難うございました。



～ 平成25年度第 1 回定例会 ～

1 「会長挨拶」 関東甲信越東海GIS技術研究会 会長 増澤延男

自民党新政権下での私たちの果たす役割は何か、地域にGIS産業を活性化させて社会貢献をするべく今年度も活動していくことを宣言。また、“会員の小さな声”を聞くことができる仕組み作り、より活動しやすい体制を構築する必要性を明言された。



2 基調講演「ガバメント 2.0 と地理空間情報社会」

NPO法人全国GIS技術研究会 理事長 碓井照子

奈良大学名誉教授 碓井照子先生がこの度、NPO法人全国GIS技術研究会の理事長に就任された。碓井理事長は、GIS界の重鎮である。今回は、私たちNPO団体が果たすべき社会的使命は何か、というテーマについてご教示いただいた。南海・東南海地震の襲来に備え、事前防災と基盤地図情報の整備手法についても具体的にどうすべきかを示していただいた。





3 新年度事業計画 関東甲信越東海GIS技術研究会 副会長 宮下寿幸

今年度のキーワードは“GISによる地域活性化”です。考え方としては、首都圏で講習会を開催するよりも、各県地元での活動を重要視しています。また、3年間運用した情報共有システムですが、費用対効果の視点から、NPOホームページの会員専用エリアへの移行を検討しています。それまではメールにて対応をお願いします。



4 技術委員会スキルアップ講座

関東甲信越東海GIS技術研究会 技術委員長 奥泉春夫

8月頃にスキルアップ講座を開催します。国の施策を具体的に落とし込んで、データ作りまでやってしまうと考えています。その知識と技術をもって、みなさまのご当地で普及活動をいたしましょう。国土地理院さんの「地理空間情報の活用促進のための協力に関する協定」の締結など、国と地域の橋渡しに貢献することもできます。



5 情報提供

(株)マップコン代表取締役 馬場浩司

マップコンの馬場社長に、開発者の目線からご教授いただきました。わたしたちのPC-MAPPINGは、国策と同時進行で進化していますので、改めて、心強いと感じましたし、全幅の信頼をおけることが再認識できました。また、国は、背景地図もツールも骨格データも提供している、「あとは私たちがやるだけ！」という叱咤激励も頂きました。



6 情報提供

福井コンピュータ(株)マキユ-事業部長 神保英雄

福井コンピュータの神保部長にも情報提供を頂きました。国土交通省は、CALS/ECからCIMへと方向転換していきます。これは私たちのGIS技術を活かすチャンスになります。<CIMの目指すこと>①情報の有効活用②設計の最適化③施工の効率化、高度化④維持管理の効率化、高度化。 神保部長、有難うございます。



7 解説「平成25年度の国の動きとは…」

NPO法人全国GIS技術研究会 専務理事 宮島四郎

NPOの宮島専務理事より、平成25年度の国の動き、関係各団体の動きを解説していただきました。私たち研究会は、この大きな国の動きを背景に、地域に落とし込んで何ができるか、何をすべきか、それは将来、何に役立つのかを考えながら行動します。GISは測量の延長です。地図を扱うプロとして、私たちは今年度も地域活性化のために活動します。



8 閉会の辞 (宮下副会長)

みなさま、今年度も、宜しくご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(関東甲信越東海GIS技術研究会 一同)

関東甲信越東海GIS技術研究会ホームページ

<http://kanto-gis.jp/>

